

令和3年度第2回浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議
議事要点

- 1 日 時 令和4年2月25日(金) 15:00~17:00
- 2 場 所 本館5階 庁議室(オンライン)
- 3 出席者 委員12名
(秋元健一委員、吹野豪委員、笹原恵委員(オンライン)、町田由佳委員、鈴木真由美委員、石田博久委員、佐藤育男委員、海野俊也委員、清水哲夫委員、小田切克子委員(オンライン)、鎌田裕子委員(オンライン)及び浜松市長(座長)
事務局4人
(企画調整部長、産業部 観光・ブランド振興担当部長、企画課長、企画課長補佐)
- 4 傍聴者 オンライン配信、報道関係者:2名
- 5 概 要 以下のとおり

1 開会

(事務局による司会進行)

□市長挨拶

(市長) 令和3年度第2回となる浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議に、委員の皆さまにはご多用の中、ご出席を賜り感謝申し上げます。

本日は、“やらまいか”総合戦略に係る2022年度の主な事業について、皆さまにご紹介をさせていただきたい。それから、今日はオンラインでもご参加をいただいているが、昨年7月に浜松市の地方創生アドバイザーにご就任をいただいた株式会社三菱総合研究所の松田智生様に、逆参勤交代をテーマとしたご講演をいただくことになっている。後ほど松田様から詳しく説明があると思うが、江戸時代の参勤交代は地方から江戸へ上ってきて、一定期間江戸でお仕事をするのと逆に東京から地方へ期限付きで移動し、リモートでの仕事や地域のためにいろいろ活動する。いわゆる逆の移動で、逆参勤交代と呼ばれ、今大変注目をされており、特にコロナ禍、東京から地方への移動というのが今話題になっているので、より一層、注目度が上がっているところである。ぜひ今日は松田様のお話を、よく聞いていただきたい。

来年度はいよいよ大河ドラマ「どうする家康」の放映が始まり、「おんな城主直虎」「いだてん」に続いて、浜松が舞台になる。今回、青年時代の家康公に焦点があたるので、まさに浜松時代の家康公にスポットがあたるということなので、私たちもこのチャンスを生かして、出世の街浜松のブランドを確立し、交流人口や関係人口の拡大に活用していきたいと思っている。ぜひ皆さまに、いろいろご協力をいただきたい。それでは、本日は限られた時間ではあるが、皆さまからさまざま活発なご意見等頂戴いただきたくお願い申し上げます。

2 総合戦略関連事業について

(事務局から資料に基づき説明)

- ◆ 2022年度事業
- ◆ 大河ドラマ「どうする家康」に関する取組

(秋元健一委員)

◆家康プロジェクト推進協議会の食文化会の取組について紹介

家康プロジェクト推進協議会の分科会である食文化会の内容紹介をしたい。食分科会では、サン・セバスチャン化構想として日本一美食のまちを目指し、浜松産の食材を使って、全国にとどろかせられるまちを食でつくることを推進していきたい。

食材の栄養価は、旬のときと旬でないときの差が非常にある(資料①)。旬の栄養価の高いものを食していると、健康に良く、免疫力も持続するという観点から浜松の食材や浜松の食というのは、健康寿命日本一にもかなり貢献していると思う。浜松の力を持った浜松のパワーフードと命名し、全国に知らしめていきたい。聖隷福祉事業団と一緒に、「栄養はなまる弁当」を保健所に協力いただき推進している(資料②)。遠鉄ストア全店で販売し昨年1年間で5万食提供できた。3月1日から2年目が始まるが、浜松産の食材を使ったお弁当で、スマートミールという塩分も3グラム以下の特殊な塩分濃度で、食材のおいしさによっておいしく、市民の皆さまからの評価もいただいた。さらにブラッシュアップして、全国そして世界の皆さまに、お届けする取組を行っていききたい。遠鉄ストア33店舗全店と、今回はとぴあ浜松とコラボレーションし、さらにパワーアップして、浜松パワーフードと銘打って食材を販売していくということも決まっている。浜松の魅力、食の魅力、栄養価の高さを、例えば給食や食卓を通じて伝え広め、シビックプライドとして全国に広げていけるように、市全体で動いていけるような活動にしていきたい。

「鎌倉殿」での経済効果が1年間で307億円、「おんな城主 直虎」のときは248億円あったそうである。2008年の「篤姫」では262億円、2010年の「龍馬伝」では535億円と、地域によってかなりの差がある。これはその地域の熱の盛り上がり方だと思っている。千載一遇のチャンスである「どうする家康」がやってくるこのタイミングで、1年間をかけてその受け皿づくりに取り組んでいきたい。このチャンスを生かし、コロナで冷え込んでしまった経済を取り戻していける切り口にし、大河ドラマが終わった後も、さらにたくさんのお客さまが来続けることに、みんなでチャレンジして行きたい。全国から人が来て浜松でおもてなしをする。そういった意味で浜松の料理のクオリティ、そしておもてなしのクオリティについて、推進会議の皆さまにも、ご意見をいただき、われわれもそれを真摯に聞いて、受け止め、具現化できたら思っているので、ぜひよろしくお願ひしたい。

<資料配付>

①旬の重要性・栄養成分の差

②浜松パワーフード 浜松栄養はなまる弁当 春の陣チラシ(2種類 A4/A5)

3 地方創生について

□講演

- ・浜松市地方創生アドバイザー 松田 智生 氏
- ・テーマ「浜松版逆参勤交代が創る地方創生の未来」

<講演中の質疑応答>

(松田氏) わがまちの解決したい課題は、どういうことであるか、今何が課題だと思うか。

(秋元健一委員) 私も東京生まれ、東京育ちで、浜松に移住した人間で、浜松に来たら本当に自然が豊かで、魅力のあるものがたくさんある。しかしそれが皆さんは普通にある

ものだから、あまりそこに気付かれてないというか、都会からしてみたら、ものすごく評価されるようなものであるが、生かされてないかなというのを最大の課題だと思っている。

(町田由佳委員) 私も4年9カ月前に、転勤とともに浜松市に移住して来たが、最初浜松に住んだ頃に、ちょうど直虎の放送などもあって、東京から友人を招いて浜松の街を案内したが当時私が知っていたのは、浜松の有名なウナギとかギョーザとか、そういった所に友人を案内して終わってしまった。

ただ4年以上ここに住んでいると、秋元さんがやってらっしゃるようなパワーフードだったりとか、本当に魅力がいっぱいあって、私自身も知らなかったというところもあるが、魅力を地域内外にもっと発信できれば、本当にいいものがいっぱいあるので、よりいいのではないかと思う。

(松田氏) もし浜松で逆参勤交代をしたら、人、場所、ことと言うと、絶対会うべき人、絶対行くべき場所、絶対やるべきことはどう思うか。

(小田切克子委員) 私は浜松生まれで浜松育ちなので、浜松まつりというのが自慢のひとつなので、浜松まつりを見てほしいし、浜松まつりで凧揚げをする人とか、あと屋台を引く人と接して欲しいと思う。どれだけ浜松のまつりが素晴らしいかということを知ってほしいと思う。

(清水哲夫委員) 会うべき人というのは、鈴木市長とぜひ会ってもらいたい。いろんなことを考えていて、改革の先頭切ってやっているのですますます会ってもらいたい。

場所としては、浜松市は北も東も両方をとっても素晴らしい環境の中にあり、これは誰もが実感できるかなと思うが、それを結局使い切れていないので、もう少し手を加えれば、もっともっと素晴らしくなると思う。

(松田氏) 浜松版逆参勤交代について皆さんの立場から見てどんな人に来てほしいか。そして、何に関わってほしいか。

(海野俊也委員)

私は新聞記者をやっていた20代の時に天竜支局に4年間いた。天竜は記者として社会人として私を育ててくれた所でとても楽しかった。その時の経験があり、今回30年ぶりに浜松へ戻ってきて、天竜を見たら本当に失望した。ぜひ天竜を外から見てもらいたい。ぜひ秋野不矩美術館、あるいは本田宗一郎さんの記念館を見てもらいたい。

発信力のある人に、そういう所を見ていただいて、天竜の自然と天竜の人々の良さを、例えば天竜新聞とか、佐久間新聞とか、水窪新聞とか、ネットでいいがそういう発信を全国にしていだけたらと思う。あとやはりただの観光案内ではない、人を紹介する、そういう発信力、あるいは原稿を書ける力のある人に来ていただいて、行く場所は天竜区というように希望している。

(吹野豪委員)

私、どんな人に来てほしいかというのがあって、私はスタートアップとして製造業に浜松市で関わっている。その中で感じることは、浜松は非常に強固な産業構造はあるが、ピラミッド構造が強すぎて、はっきり言うと生産能力しかない。すごく大きなチェーンでも営業部がなかったりとか、新規事業だったりとか、発想が転換をするということが、DXの中で必要である。それをやられたことがある方に来ていただきたいと思う。

□質疑応答・意見交換

(石田博久委員)

コロナ禍でも制度設計をして、逆参勤交代に宿泊とか交通とかをセットにして法人を巻き込むというような話があったが、これをいろんな日本の中の都市でやったときに、この制度設計は、それぞれの都市でやるというイメージをお持ちか。市でこれをつくっていくというようなお考えか。

(松田氏)

両面ある。市でできること。あるいは国を巻き込むことがあると思うが、申し上げた法人版 GoTo、これは国の巻き込みが必要だと思う。あるいは逆参勤交代減税もそうかもしれない。ただ、市単独でできるのは、地域通貨とか、ポイント制度である。浜松に 50 時間貢献したら、50 時間子供たちに教えたら、それが地域通貨になるといったようなことは国に頼らず、今のスマートシティと連動させて、就労しました、教えました、歩きました、買い物しました、というポイント制度を一気通貫ですれば、これは浜松市だけでできることだと思う。ゆえに国、市、あるいは民間でできること、それぞれあるということ。

(佐藤育男委員)

この逆参勤交代、すごくいいことだと思う。受け入れる自治体があるとともに、ある程度大手の企業が、例えば社外研修制度みたいなものと同じように、企業が取り組むというのが一番進む道かと思うが、このことについて企業側の対応はどんなふうになっているのか教えてほしい。

(松田氏)

非常に重要な指摘である。2 年前に企業の経営幹部向けに、逆参勤交代のアンケートをとったが大企業、従業員 1,000 人以上についていうと、逆参勤交代に関心があるという人は 7 割で結構高い数値であった。逆参勤交代のモデルとして経営幹部はローカルイノベーションと、セカンドキャリアに関心が高かった。その心は、地方創生をビジネスにしたいということと、セカンドキャリアというのは、バブル世代と団塊ジュニアの処遇に困っている。この人たちをキャリア転換させるか、活性化させたいということであった。

課題は何かというのを聞いたところ、費用負担、それから費用対効果、この 2 つが課題として挙げられた。そのため、エビデンスや数値を見せるというのは、逆参勤交代により、参加者のモチベーションが高まった。健康経営にプラスになった。あるいは、株価が上がったという、何かしらエビデンスを見せないと、やはり企業は動かない。突破口は、企業の豪腕部長や豪腕課長だ。これまで参加している大企業には、豪腕部長や豪腕課長が自ら参加して、これ良かったと。じゃあうちの課で次は若手 2 人出すといったような人が増えている。この豪腕課長、豪腕部長を動かすのは、僕は高校人脈だと思う。地元の名門校を出て、地元で貢献したいという首都圏の大企業の人がいっぱいいるとすると、浜松の名門高校を出た人で、部長、課長、役員の人に対して「あなたの会社から逆参勤交代に数名出してよ」という突破口は、高校人脈じゃないかと思っている。

(鈴木真由美委員)

10 年ぐらい前に三菱総研の本で「3 万人調査で読み解く日本の生活者市場」(松田氏共著)というニューノーマルの本を読んだことがありアメリカの CGRC という言葉を初めてその時に知った。かなり前からシニア人材活性化をやっているのを、信念を持ってやられていたんだと感銘した。これから超高齢化社会になっていくのをチャンスに変

えることが浜松市の地方創生の肝になっていくと感じた。最近、ニューノーマルという言葉をよく耳にするようになったがこの逆参勤交代という変化に対応できるような時代に取り残されないようにしていかなければいけない。これは浜松市も3月中旬から参加されるということなので、素晴らしいことだと思った。

自分自身は、OL時代に名古屋に本店がある都銀におり、この時から東京に憧れをもっていて、結婚してようやくちょっと東京に近い、浜松信用金庫という所で再就職して働いておりあと少しでまた東京にだいたい近づけるので、自分の中では参勤交代が本当にあつたらいいなといつも心の中で思っていた。逆参勤交代とは反対に東京に行って、何か勉強して、もっともっと浜松に還元できることはないかと思った。

(松田氏)

私は相互作用だと思っており、ぜひ参勤交代もしてもらいたいと思っている。資料にある丸の内プラチナ大学に市長にもご登壇いただいたけれども、ここで例えば、浜松の中高生、大学生、あるいはスタートアップがここに来て学んだり、交流したりするという機会、参勤交代を設けてもいいなと思っている。だから、一方通行ではなくて、循環というアイデアである。

CCRC やアクティブシニアに関して言うと、私は逆参勤交代をきっかけに、浜松に移住するというのが多いにあると思う。例えば逆参勤交代をきっかけに、いい所と感じ移住したいという人が増える。その鍵は、地域金融機関だ。

1つのアイデアは、ある地域金融機関が、健康診断を受けたら預金の金利が10倍になるという健康寿命延伸積金預金を新商品として販売した。預金金利10倍で、0.02が0.2パーセントになる。これをやったら、今まで健康診断を受けなかった主婦や個人事業主が続々と受診して、半年で10億円以上の大ヒット商品になった。健康診断を受けるだけで預金金利が10倍になるわけだから。

そうすると逆参勤交代に浜松の地域金融機関での預金がセットになれば、金利10倍ということが魅力になる。「がんばろう日本」と「絆」の精神論だけでは、人は動かないわけであって、浜松に来ると体の安心、お金の安心、心の安心があるというのが大事だと。そう考えると、金融機関がすごく私はここで、大事な役割を務めていると考えている。

(石田博久委員)

十数名の方が浜松に自腹で集まったと話されていたが、言っていただけの範囲で結構なので、どんな方が、どのエリアからどんなジャンルの方がお見えになっているか教えていただけるか。

(松田氏)

首都圏人材で、年齢は20代から60代まで。男性が6、女性が4ぐらいである。それから大企業勤務者が約7割、自営業、フリーランス、個人事業主が2割、学生が1割という形。

大企業でいうと大手財閥系企業から大手外資系企業が参加しているというところである。

【議事録補記】

令和3年度浜松版トライアル逆参勤交代は、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の適用により中止

(石田博久委員)

大手企業の方たちも個人負担でお見えになるのか。

(松田氏)

約 7 割が会社負担。つまり会社の出張や研修として参加している。3 割の方は有休を取ったりだとか、あるいは自営業の方は仕事として来ている。

(小田切克子委員)

わがまちの課題というところでお話したかったが、浜松市の課題は、若年の女性が首都圏の大学へ行ったまま、そちらで就職をしてしまって戻って来ないことである。その大きな理由の 1 つは、浜松市に高等教育を受けた女性が働きがいを持って、やりがいを持っていきいきと働ける会社が、残念ながらまだ少ないということである。

やはり性別役割分業ということで、男性は現場、女性は事務というような、そういった昭和的な価値観がまだあるようにやはり感じる。社会保険労務士という仕事をしており、たくさんの中小企業へお邪魔するが、少し考えが古いかないところがある。なので、逆参勤交代というもので、大学へ東京や名古屋へ行ったけれども、でもやっぱり、今の特に Z 世代は親、おじいちゃん、おばあちゃん、大好きだから、週末は帰って来たいとか、子育てのときには帰って来て、自分が生まれ育った浜松で子育てしたいというようなことがこれで可能になるのであれば、ものすごく浜松にとってもいいことである。

でも浜松の企業が変わらなければ、例えば子育てが終わったときに、浜松の地元の企業で働きたいという女性が働ける場所がないということだと、やっぱりもったいないところがある。ずっと東京の方の会社に取り残られてしまっている。なので、交流人事のような東京の方の大きな会社と、浜松の中小企業が、インターンシップや人材交流、そういうところでぜひ中小企業の方にも刺激を与えてもらって、うちの会社このままじゃ駄目だよねっていうような気付きを与えてもらえるような、そういう事業もやってもらいたいと思う。

もう 1 つが、国の DX の民間の審議員をされている会社代表の方がおっしゃっていて、すごく心に残ったことがある。オランダとかデンマークはものすごく DX が進んでいる国として知られている。デンマークに視察に行って、デンマークの政府の方に、デジタル化、DX を進めて行くのに何が一番大事かと聞いたら、デジタル化を進めるためには、アナログを大事にすることが大事だと言われた。どういう意味か聞いたら、デンマークはヨーロッパなので、地続きであり、一生懸命デジタルの教育を施すと、違う国に出て行ってしまう。それはデンマークの人が優秀ということなだけけれども、でも、他の国の経験をして帰って来てほしい。そのためには、子供の頃にいかにデンマークが良い国か、デンマークの歴史とか、デンマークの風土とか、そういったことを教育しておけば帰って来る。それがアナログが大事という意味だという話を聞き、これって浜松にも言えることだと感じた。東京と地続きであり、ヨーロッパと同じというふうに考えたら、この逆参勤交代というのはつながるところがあるのかなと、本当に興味深く聞かせていただいた。

(松田氏)

極めて大事な指摘であって、子供たちに自己肯定感とシビックプライドを持たせるということが、将来の U ターンにつながる。さっき紹介した未来人材との交流というのは、ぜひ今後入れて行きたいと思っている。あと女性が浜松へ戻ってこないということだが、先ほどの講演で映した方は高知の方である。東京へ出たが、U ターンで高知に戻った方がいいことを言っていて、「大嫌いだっただ故郷は、実はかっこいいの宝庫だ

った」という名言で、田舎くさいとか、ダサイと思った高知が、年を重ねて戻って来るとかっこいいと。彼女はデザイナーなので、地元のハーブやショウガのパッケージデザインをしている。彼女から見ると高知のお土産って、量が多く、あとパッケージも小分けじゃなくて女子力が低いと。製品はとて面白いから、その見栄えを良くするというので、今活躍されている方である。

さっき浜松にそういった女性が就くものがないと話があったが、こういったデザインだとか、何か生かせる分野というのはあるような気がする。U ターン女性で、どんな分野で活躍されている人がいるか。

(小田切克子委員)

浜松ではないが、加藤百合子さんであったか、農業と IT を組み合わせた。あの方は U ターン組じゃないかなと思う。

(松田氏)

私は女性の U ターンは結構希望だと思っていて、先程紹介した高知の女性は、配偶者と子供を連れて U ターンした訳だが、浜松出身の女性が、配偶者と子供を連れて U ターンするモデルを考えてはどうか。

(吹野豪委員)

逆参勤交代について、非常にいい考え方だと僕も思っている。私たちの周りでも活躍している浜松出身の方たちも、実はもう東京とか浜松とかそういう話ではなくて、海外に出た方が多い。

そのため、逆参勤交代をやるのも大事だと思うが、高校生が、東京に行きたいなら別にニューヨークでも良いといったところを自治体がしっかり支援して、もうちょっと広い視野を持てるように支援をするのは、すごく大事なのではないかなと思う。そこで投資することで、将来的な逆参勤交代のリターンはもっと大きくなるのではないかなと思う。

(松田氏)

全く同感である。ブーメラン作戦ではないが、思いきり遠くへ飛ばして戻って来れば良いということだと思う。

(笹原恵委員)

大変興味深く伺った。いくつか感じたことと質問がある。逆参勤交代の場合に、いろんな世代を想定していると思うが、何となく中堅以上というか、シニアの方が活躍なさっているのもあるので、わりと年配の方の活躍型を想定しているように思われる。今日伺っている中ですごく面白いなと思ったのは、元支社長とか支店長たちに着眼するというので、すごく興味深いと思った。取引があったり、責任を持って関わってらっしゃるので、そういう意味で浜松の良さもよくお分かりである。ただ、一方で支社の支社員としていらした方が、後々支店長とか支社長として来ていただくというようなもう少し若手も良いと思う。

先ほど小田切さんが女性ということをおっしゃったんだけど、若手の方々に関心を持って来ていただくための仕掛けとか、あるいは、確かにお金としては法人に関わっていただくということもあると思うが、今日、松田さんがお話くださった中で、やはり市民中心にといったところを、今のデザインの中にどのように組み込んでいく必要があるのか。あるいは行く方向って、どのように考えたらいいかということをお伺いすればと思った。

もう 1 つ、実は私は浜松まつりの調査というのをしばらくしており、そこですごく興味深い現象があったので、それをもたぶん松田さんがおっしゃるような逆参勤交代に近

い部分もあるかなと思うので、少しご紹介したい。

浜松まつりは基本的に地元の人が参加するまつりなので、参加する際は地元の知り合いに声をかけてもらって参加するということが多い。私が調査に行った所は、自分が勤めている同僚や上司を地元の浜松まつりに招待して、そうするとまちの人たちととても仲良くなるので、転勤して違う所へ行ってからも、まつりのときだけ戻って来て、にわか浜松市民のような形で、1年ぶりで久しぶりだねというふうに話をして、関わっていただくようなことがあった。すぐに逆参勤交代のパターンになるかは分からないが、市民中心の交流という意味では、そういうのもちょっとヒントになるかなと思いつつながら、お話を伺っていた。

(松田氏)

多世代という視点はとても大事で、実はシニアが中心のように聞こえてしまったけれども、全世代のことを想定している。若手は新しい働き方をする会社に帰属意識が高まり、辞めることが少なくなると。坂本竜馬が江戸に剣術修行に行ったように、これからは優秀な若手は地方で武者修行をすべきだということで、若手の逆参勤交代も大いにあり得る。それから30代ぐらいの働き盛りで言えば、彼らが課長になる前、管理職になる前に必ず逆参勤交代を経験するといったことを組み込むということである。あとは、私は今年度の最大の発見は、学生の参加が増えてきたことである。地域に関わりたいという学生はいる。なので、今回20代から60代まで参加するけれども、非常に多世代の人が参加するというのが、今の流れになっている。

後半の市民の巻き込み、ヨソモノとの交流や化学反応を起こすことは、まさに大事なポイントであるので、これはぜひ先生、あるいは今回の委員の方から、巻き込み方のアドバイスをいただき次年度反映させていきたいなと思っている。

(町田由佳委員)

先ほど来てほしい人という中で、発信力がある人というお話があったと思うが、私の同世代の友人で、東京に行った友人でインスタグラマーのような人になっている人もいる。首都圏でSNSなどをうまく活用し活躍している人材が実際にこの逆参勤制度を利用して、いろんな地方に行って地方の魅力を発信したりなどの過去実績があるかというのをお聞きしたい。また、地元の中企業とか、私もそうだがなかなかSNSで発信するのは得意ではない人も多いと思う。実際に首都圏から来た人からノウハウを受けて、自分の地域の魅力発信とか、自分の会社の魅力発信などにうまく活用できた事例とか、そういうノウハウの伝達が実際にあったり、このトライアルでそういった好事例があったりするのかなというのを伺いたい。

(松田氏)

まずSNSの利用については、非常に皆さんやっているのだから、トライアル逆参勤交代中に行った場所や食べたものとかをすぐツイッター、フェイスブック、インスタグラムにアップしている方が、とてもとても多く感度が非常に高い。

それから後半の好事例だが、これをきっかけに北海道の市町村のSDGsアドバイザーになった方もいるし、あるいは副業的に販路開拓をしている、あるいは地元のベンチャーのクラウドファンディングにお金でサポートしているという人、あるいはふるさと納税を始めたという人もいる。関わり方は、ノウハウで関わる、お金で関わる、消費で関わるということで、いろんな好事例が増えていると思う。

4 閉会

(事務局（企画調整部長）)

皆さん、活発な意見交換をいただき感謝申し上げます。最後に、皆さまの委員の任期についてご連絡をする。

現委員の皆さまの2年間の任期がこの3月末をもって満了となる。皆さまにおかれては、これまで本市の総合戦略の推進にあたりご協力をいただき、御礼申し上げます。次期委員については、4月以降に改めてご推薦いただいた方あてに、就任依頼をさせていただく予定である。

(清水哲夫委員)

最後に意見をお伝えしたい。これで私の総合戦略推進会議への参加は、終わりになると思うが、いろいろ勉強させていただいた。私個人の考えだが、市長にも検討していただきたいということがある。例えば、シティマラソンについて、まちなかを通るというのもいいが、むしろもっと変えて、館山寺とか弁天とか、浜名湖を使って、場合によっては引佐、三ヶ日まで使って、観光を見ながら、人に動いてもらう。こういうことで、また新たな動きの中で状況が変わってくるということが1つある。

あと、今、吹奏楽を駅の北でやっていると思う。もちろんたくさん人が集まる所であり、長年定着しているが、やはり人の動きというのをつくった方がいいと思う。全てを移す、全て別の場所でやる形ではなくて、例えば今度はこっちでやってみようとか、それによって人は動くわけである。そういう動きを考えていくということをするれば、まちなかの人の流れも変わってくると思う。単なる演奏しているまちではなくて、楽器を作っているまちであるから、もっともっと音楽関係に力を注いでいただきたい。時間の関係で省略し、あと1点だけ。ドラマ館について、ドラマが終了したら閉館ということである。例えば浜松駅から色んな人が歩きたくなるようなルートを作って浜松城まで行く。それがその時で終わるのではなくて、せっかく人の流れができると思うので、ずっと続いて行くような整備をしていってほしい。個人的な意見にはなるが、浜松市にとって少しでも前に行けるよう、希望が持てるように、ぜひご検討願いたいと思う。

(事務局（企画調整部長）)

清水委員、ありがとうございました。浜松をより良くしていくということで、またご意見やご指摘、ご提案を踏まえて、より良い市政にして行きたいと思うのでぜひご協力をお願いしたい。委員の皆さま、松田様、長時間のご参加、意見交換について御礼申し上げます。今回の議事録については、文書にて後ほど報告を予定している。これをもって、令和3年度第2回浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議を閉会する。